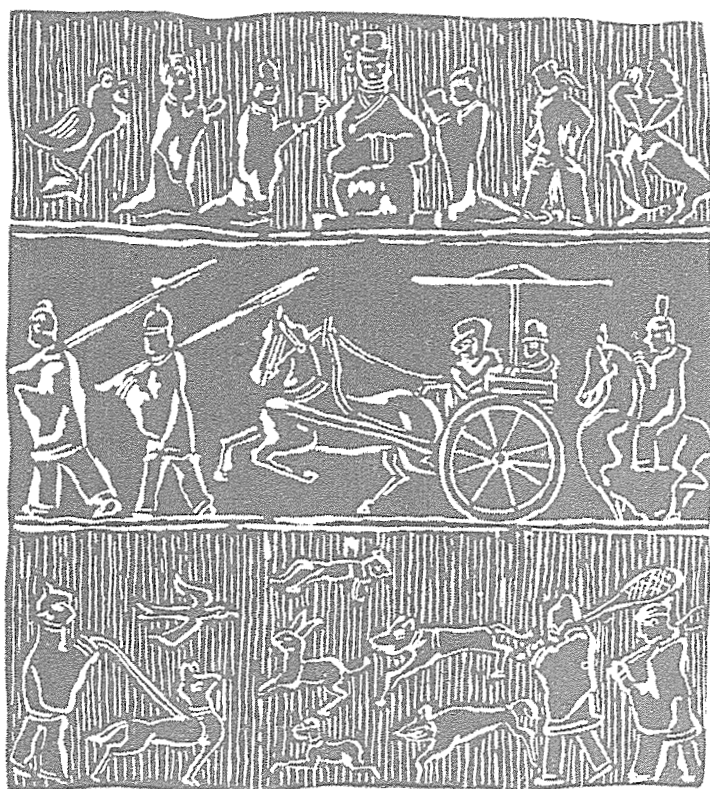


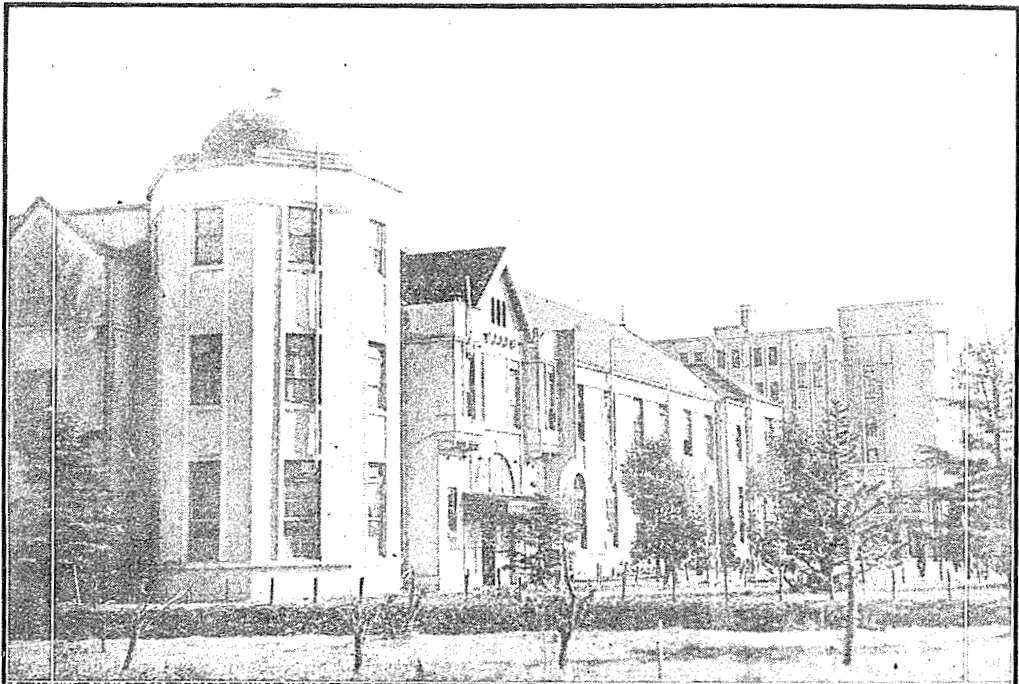
新西大學生報

第百五十九號

昭和三十三年五月



關西大學生報發行



(山里千)部 學 大(上)
(六 天)部門専及部本學大(下)



園 學 の 近 最



目次

貯蓄八十億圓の問題……………

正井 敬次 (一)

新刊紹介……………越智 弘 (四)

學内報…………… (五)

日本文化講義—矢野龍三氏來學—がくほう抄—追試験卒業生氏名

校友…………… (六)

校友會役員決定—東京支部—朝鮮支部—大連支部—川邊支部—KUS—應台車務公用者—動靜移動

學友…………… (二)

皇道宣傳會—東亞研究會—關大スポーツ

昭和十三年度入學選拔試験問題 (二六)

圖書館閱覽統計…………… (二七)



貯蓄八十億圓の問題

經濟學博士 教授

正井 敬次

去る四月中旬以來、政府は國民貯蓄の獎勵に特別の努力を拂つてゐるやうである。國民運動としての貯蓄獎勵は、其は一種の國民精神動員であると云つてよい。即ち貯蓄獎勵は長期戦の國民經濟に於ける一の經濟上の動員であるが、同時に其は經濟的國民精神の動員とも云はるべきものであるからである。政府此度の貯蓄獎勵運動は、本年四月より來年三月末迄の一年度間に、大體に於て八十億圓の貯蓄金額の増加を實現せしむることを目標とするものであるが、此際貯蓄の必要は云ふまでもないことであるとして、さて八十億圓と云ふ金額は何から割出したものであるか、又何故にそれだけの貯蓄を必要とするのであるか、而して又、果してそれだけの貯蓄増加が此一年間に實現せられ得るものであるか如何か。

今度の貯蓄獎勵については、四月十九日の閣議に於て具體的に其方針が定められたのであるが、其後大藏大臣は種々の機會に、國民に對して八十億圓貯蓄の必要と其の可能であることを説明してをる。大藏大臣の説明は簡單であるが、いまそれを分り易く解説するときは次の如くである。

まづ八十億圓の貯蓄が必要であると云ふ點については次の通りである。本年度中には五十億圓程の公債が発行せられる豫定であり、又生産力擴充のために三十億圓程の資金が必要である。公債發行の影響について見るに、公債が從來通り大部分が日銀引受の形式で發行せられる限り、それによつて社會に流通すべき新しき資金の分量が割り出されることになるのであるが、その資金が政府によつて民間に支拂はれ、それが社會の各方面に流れてをる限り、それは卸賣又は小賣の商品がそれだけの金額に於て取引せられをることを意味するのである。この場合新しき分量の「かね」に對す

るだけの新しき「物」が内閣にて造り出されるならば「かね」と「物」との數量の調和が取れてゐるから物價は上らないが、大抵は「物」の増加の方が後れるから、「物」が比較的不足して物價が騰貴するのである。公債による餘分の資金が社會に流れてをる限り物價は上る。然るに物價騰貴が政府の豫算の實行にも國民生活の上にも不都合であること云ふまでもない。そこで公債は發行せなければならぬが同時に物價の騰貴は之を防がねばならぬ。それには、資金を社會に於ける商品取引の流れより、銀行とか郵便局とかの資金の貯水池の方へ、それが流れ入るやうに仕向けることが必要である。かくして公債發行による物價騰貴を防ぐには貯蓄の奨励が必要であると云ふ譯である。然るにそれは同時に、公債消化の爲にも貯蓄増加が必要であると云ふことを意味する。即ち公債は五十億圓が一時に發行せらるゝものではなく、五億圓、三億圓と時々發行せられるのであるが、初の五億圓が速かに社會に於ける流通から銀行等の貯蓄機關に還流し來つて貯蓄資金となるとき、其資金で以て次の公債三億圓が容易に發行出來ると云ふやうに、順次に公債が民間の貯蓄資金で消化せられるから、公債消化の點から見ても貯蓄が必要である。さて公債五十億圓の發行による資金が本年度に於ては餘分に社會に支拂はれるが故に、それだけは國民全體の本年度に於ける所得の増加となる。そこで物價安定と公債消化の點より見て、所得のこの増加部分は、商品取引の爲の流通資金となることのないやう、其の全部が貯蓄資金に引上げられることが理想的である。次に生産力擴充のために必要な三十億圓の資金であるが、これは五十億圓の公債によつて増加する國民所得以外の國民所得の中から貯蓄せられなければならぬ。それでなければ

生産擴張資金としての日本興業銀行其他の銀行の貸出が餘分の資金となつて社會に流通するから、物價の騰貴を惹き起す。右の次第にて本年度に於ては財政經濟の安全を期待する爲には八十億圓の貯蓄増加を必要とする云ふのである。

なほ云ふ迄もないことではあるが一寸斷つてをきたいのは、八十億圓の貯蓄増加と云つても、それだけの資金が一年の終りに於て銀行などの貯蓄機關に於て遊金として存在することになる、と云ふ譯では決してない云ふことである。貯蓄資金は順次に公債に又は生産擴充の爲の貸出に向けられる。そこで一年の終りには、銀行其他の機關に於て八十億圓の預金増加があると同時に貸借對照表の反對の側に公債と貸出に於て八十億圓の増加がある、と云ふことになるのである。

次に八十億圓の貯蓄が可能であるか如何かと云ふ點については、五十億圓の公債資金は國民所得の増加となるが故に、各々の會社なり個人が所得の増加部分を全部貯蓄することにするならば、五十億圓の貯蓄増加は可能であり、次に我國に於ける貯蓄の自然増加は昨年に於て二十億圓程に達するが故に、本年度に於て公債資金以外の所得より三十億圓を貯蓄せしむることは必ずしも困難ではない、かくして八十億圓の貯蓄は可能でなければならぬ、と大藏大臣は見えてゐられるやうである。

以上が八十億圓貯蓄の必要と其の可能に關する政府の意見である。元より右の金額は貯蓄奨励を強調するの方便として可及的に大きく見積られてをる。政策としてはそうすることが必要である。併し實際には今日何程の程度に貯蓄が必要であり又可可能であるか。私は茲にては實は貯蓄八十億圓の意味を説明するだけに止めるつもりであつて、その檢討と

か批判をする意圖は少しもないのであるが、たゞ少しばかり實際はこうであらうと思ふ點を述べて見れば次の通りである。

生産設備なり就業労働者の數が従前と同一であるならば、物價安全の爲には、其等のものに對する餘分の所得が全部貯蓄せらるゝを要するけれども、生産設備と就業者の數が増加してゐたらば總所得の増加部分全部の貯蓄は必要ではなく、其は寧ろ物價を下落せしむるものであり、従つて又、物價安全の條件の下にては右の場合所得増加部分全部の貯蓄は不可能であると見なければならぬ。戰時經濟の自然的膨脹と、本年度に於ける公債五十億圓の物と人とに對する支拂は、當然本年度に於ける生産設備と就業者の數に相當の増加を招來するに違ひないのであるが、此點より見ると、本年度に於て貯蓄八十億圓の増加は不可能であり、又單に物價騰貴を防ぐにはそれ迄に貯蓄を増加せしめる必要もないのである。昨年あたりは國民所得の總額が百五十億圓程に計上せられ得たかと思ふのであるが、それに對して貯蓄増加は二十億圓程度のものであつた。そこで本年度五十億圓の公債が發行せられるとして、國民所得を二百億圓に達するものと見る、而して公債五十億圓に原因する所得増加の中の大なる部分が貯蓄せられるものとする、右の如き條件の下では本年度に於て五十億圓程度の貯蓄の増加を實現せしめ得たならば餘程成功であり、又それだけ貯蓄があつたならば物價騰貴も甚しきには至らないと思はれる。

右の如く私は考へるのであるが、それは打ち明けての話である。左様な理屈は兎に角として今日の場合、企業家も消費者も一般に極力節約と貯蓄に努力すべき時である。それについて、政府の側よりすれば、貯蓄

奨励の政策に伴つて價格統制と云ふことが必要となり、又一般消費者に對しては、射利的行爲の自肅を要求すると云ふ經濟的國民精神動員の必要が感ぜられるのである。

不要不急の産業に對しては其の生産擴張を手控へしめることが其等の事業の貯蓄を増加せしめる所以であるが、企業家の營利行爲を制限することは困難のことである。併し生産擴張は製品價格の先高見越によつて實行せられるが故に、いま價格統制によつて右の見込を消滅せしめるときは事業家の思惑仕事は減少する譯であり、而してそれが彼等の貯蓄を増加せしむる所以である。かくして價格統制は間接には貯蓄増進の手段である。次に企業家でなき一般消費者即ち俸給生活者とか仕事のなき金持とかに對しては、土地を買ふとか家を建てるとかの見込仕事に頭をつかふことを成るべく止めて貰ふやうにすることが必要である。

インフレーションと云ふ言葉が金持に恐怖的に聞え、物價が暴騰するならば早く何かを買つて置けば安全である利益である、と云ふやうな傾向が一般的となると、その傾向それ自體がインフレーションを作り上げるのである。インフレーションは公債發行者と云ふやうな客觀的事實によつてのみ不可避免的に襲來するものではない。其は主としては國民の精神なり決意の如何によつて醸成し出される。公債發行額が如何に大であつても、それが海外支拂に多く充當せられざる限り、國民に於ける貯蓄の決意が鞏固であり射利的行爲の自肅が嚴重であるならば、インフレーションは起らないのである。インフレーションはそれを恐れて慌てる連中が自ら之を招くのである。此點より見るも、此際政府に於ける貯蓄奨励の意を體して各人が其の經濟行動を慎重にすることが必要である。斯の精神の發揚を私は經濟的國民精神の動員と云つて來た。

ウヰリアム・バアリスの近著

『戦争の法的地位』を繞りて

WILLIAM BALLIS, *The Legal position of War: changes in its practice and theory from Plato to Vattel, The Hague, MARTINUS NIJHOFF, 1937.*

一九二〇年以降、戦争理論の復興は國際法學界に於て注目すべき事象の一つであるが、此傾向に關する限り、吾々は正戰學說の歴史的研究の秩序が一部を除き専門的學究以外の人々の貴重な業績に俟つこと大なる點に一層の興味を感じざるを得ないのである。

此側面に於ける寄與の數々は、茲に掲ぐる限りではないが、其二、三の代表的文獻に徴するも、先づ第一にヴァンデルボオル Vanderpol の「近世の神學者及寺院法學者以後の戦争法」 *Le Droit de Guerre d'après les Théologiens et les Canonistes du Moyen-Age*, Paris, 1911. 「基督教以前の戦争」 *La Guerre devant le Christianisme*, (in *Bulletin de la Société Graty*) Brussels, 1911. no date. 「戦争に關するスコラ學說」 *La Doctrine Scolastique de la Guerre*, Paris, 1911. 「戦争法に關するスコラ學說」 *La Doctrine Scolastique de droit de Guerre*, Paris, 1911. 3ed. 1925. (リオン大學で法律學を修めた彼は教師であり、カトリック神學にも多彩な造詣を有したのであるが、一九一五年逝去して本書は其遺著である。) 第二にルグウ Regout の「聖オーガスチンより現代に至る正戰學說」 *La Doctrine de la Guerre Jusque de Saint Augustin à Nos Jours*, Paris, 1935. を掲ぐることを得るのであるが、此分野に於てルグウの新著の出現は果敢激烈な兩家の對立を招來し、第二の著述に於てルグウは序論、聖トマス・十六世紀の正戰學說の紹介、將又現今の學說の展開を通じ、始終一貫、ヴァンデルボオルへの猛烈なる反駁を繰返して來た。

反面、之と前後して戦争理論の歴史的檢討は、専門的學究の手を通して活潑なる動向を示するに至つた。

第一に掲ぐべき勞作はライト Wright の「戦争概念の諸變化」 *Changes in the conception of War*, A. J. of L. XVIII, 1924. であり、第二にはステューアズオ Sturzo の「國際社會と戦争の權利」 *International Community and the Right of War*, New-York, 1930. である等が夫々の分野に於て戦争理論の歴史的檢討と展開に密與してゐることは茲に更めて言明の要はないが、今回此書架に加へらるべきバアリスの表記の新著は「戦争の法的地位」の理論史の解剖に於て、前掲の二主流を併せ含まんと思圖するものであり、プラトール Plato からヴァッテル Vattel を經て十八世紀終末に至る理論家の交流を手際よく纏め上げてゐる。

著者は言ふ、戦争は國家間に於て公的武力が適當に行使せられる状態であると、彼は茲に於て四の疑問を提出する。(一)、はそれが誰に依つて戦はれてゐるか(二)、如何なる形式に依り初まるか(三)、如何なる場合にそれが正當化されるか(四)、如何なる限度に於て、時間的場所的に承認されるか、等である。政治的變革の各々の繼續的段階に對し、其答解は先づ國家の實際に關する眞實の歴史的記述及び其主要なる理論的著述の梗概に於てである。本稿の主題は勿論正義戦争の理念の變革であり、其理念こそは實證的見地の勝利に對する學徒の道德的諸體系を通して羅馬のフェチアレス Fethes の儀式から來たものである。吾々に於ては此古き問題が今更新されてゐる點に極めて興味を覺ゆる。此論文は來るべき最新期の研究に對する準備として提供されてゐるのである。

彼は緒論を進むるに方て前述せる戦争理論の抽象的条件を摘出し、周到にも之が伊エ紛争及日支紛争に方て對國際聯盟關係に於て提供された諸問題に論及してゐる。

次に第一章は古代と題して希臘及羅馬の代表的理論家を捕へて其理論及實踐の研究(一二—三三頁)に費し、第二章中世に於ては其實踐と教會人、法律學者の理論(三二—六〇頁)を取扱ひ、第三章に於ては實踐と文藝復興期人文主義者、改革者の理論的研究と國際

法學者の著述の研究が遂げられ、第四章に於ては十七世紀、第五章に於ては十八世紀の國際法理論及實踐を夫々檢討するのである。

然して最後の結論(第六章)に於ては説き去り、説き來つたそれ等の理論的成果を概觀すると共に、正當戦争を(一)、適當なる動機、(二)、正當なる原因、(三)均衡の要素、(四)、適當なる當事者に依る宣戰なるカテゴリーに收めてゐる。

著者の詳細なる此研究の準備工作は卷末に附せられた、可成充實したリテラツールに依つて讀者の便宜が顧慮されてゐるが、幾多の先驅者にも不拘グロチウス Grotius に負ふた戦争理論の體系的展開は二つの課題を負ふ宿命に墜入つてゐた、それは他方に於て戦争法の二大眼目であり、課題であつた。それは一方に於ては *Jus ad bellum* (戦争を爲す權利) であり、他方に於ては *Jus in bello* (戦争中に於ける權利) であつた。グロチウスも又其名著「戦争と平和の法」 *De jure Belli ac Pacis*, Paris, 1625. 一、二卷を前者の研究に三卷を後者の檢討に捧げた。然し法理論の歴史的變遷は、十八世紀に入つて後者の問題を戦争法の重點と化せしめ、前者は其後塵を拜するの外なき狀勢と爲り近代學說は、後者に愈々其重點を移してゐるものと言はれて來た。

一代の國際法史家ナイス Niss 近いて、其衣鉢を繼いだフィリップソン Philipson の精力的な勞作出で、既に二十數年、其間戦争理論の王座は講壇を一應下つたかに見えたのであつたが、再びライト・ステューアズオ・バアリスの講壇學究の手に歸したと言ひ得るかも知れない、然し舞ひ戻つた戦争理論はナイス、フィリップソンの遺産のそれに數歩を進めてゐるだらうか? 之に對し一層深遠なる科學的メスを振ひつゝあるスコット Scott 教授こそよなき其後見者と言はざるを得ないであらう。

(越智 弘)

校 友

校友會役員決定

校友會役員中評議員は本誌前號に發表された處であるが、四月二十八日常議員選出され、五月十日(火)午後六時より天六學舎會議室に於て常議員會を開催、其決議に基き左記の諸氏に決定した。

尚常議員氏名は

副會長 內藤 正剛
常任幹事 岩崎 卯一 桂 忠雄 樫本 信雄
岩崎 卯一 糸島實太郎 原田鹿太郎 島羽源四郎
遠部逸太郎 大月 伸 織田佐代治 桂 忠雄
河村 宜介 樫本 信雄 神尾數良藏 武内 省三
內藤 正剛 中村 忠夫 植田 完治 松本茂三郎
阿部 正貫 南 清 森川 太郎 角田好太郎

東京支部

春季總會 四月十八日午後六時總會を開催、役員の選舉を行つて後、懇親會に移り饗宴徐に進み、和氣室に滿ち、午後九時散會した。

因に新役員は左記の通りである。

支部長 松澤 卓規
副支部長 加邊 力
顧問 矢道 秀作 有田 秀造
幹事 板橋 菊松 伊藤 茂 濱口 圭二
富山 忠造 大月義平二 茨田 忠八 深谷 茂
小見山義夫 朝倉 健二 北本常三郎 井上松治郎

森田彦四郎 古田吉五郎 山口直三郎
東京支部事務所移轉
東京市日本橋區蠣殼町一丁目一一 松澤公證役場

朝鮮支部

春季總會 四月七日午後六時より本町「松金」に於て第十回總會並に顧問吉田、末廣兩氏の歡迎會を開催し役員の改選をなす。總會終て懇親會に移る、國家非常時を意味して萬般實素を旨とせしも一同久方振りの會合に時刻の過ぐるを忘れ懇談、九時母校の萬歳を祝して散會した。當日出席者二十四名

新役員並に事務所

顧問 岡本 至徳 吉田平次郎 寺川 三藏
末廣 清吉
支部長 松本 正寛
幹事 森井與一郎 堀 鏡 松田 清
高橋 伊平 太宰 明 野田 博 江藤 榮七
玉木 豊吉 大川 正雄 伊藤 國雄 伊東 祐一
海野美代一 鬼村 力一 木原 安彦 吉本 章
飯田 守 小堀 欣二

大連支部

秀麗會 三月廿日午後六時半山縣通り「マシス」に於て第二十四回例會開催、今回は少し雲圍氣と味覺とを變えてみる心算でマシスにした。話は北支中支の開

應召軍務公用者 (其の五)

卒業生

觀音寺喜陸君(昭一 專法) 昭和十二年十一月二十四日無錫附近にて名譽の戰死
紺谷 清君(昭八 專一法) 二月二十日靈石に於て校友小倉少尉と共に名譽の戰死
濱田 壽君(昭八 專二法) 木下 清君(昭八 專二法)

佐藤虎太郎君(昭九 專一商) 清川 清君(昭九 專二法)
千葉 計次君(昭一〇 大法) 村井 新次君(昭一〇 大法)
高田 利文君(昭一〇 大法) 福盛 芳信君(昭一〇 專二法)
松原 善君(昭一一 專二法) 助川部隆柏端隊に屬し
三月二十五日名譽の戰死

前廣 雪君(昭一一 專一法) 安藤 誠一君(昭一二 大法)
植村 利治君(昭一二 大法) 平川 治雄君(昭一二 大經)
井上 武男君(昭一三 大法) 中村 岳君(昭一三 大商)

在學生

佐野利三郎(學部 法二) 草加 良人(專一 法三)
村田 正二(專一 法三) 藤原 榮一(專一 法一)
吹田 幸男(專一 商一) 井上 正高(專一 法三)
前川 保(專二 法三) 宮里 正典(專二 法二)
竹中 力(專二 法二) 小野 眞(專一 法二)
龜山 慶三(專二 法二) 山口 隆一(專二 法二)
田中 五吾(專二 經二) 田中 基市(專二 商二)
長濱 行路(專二 國二)

發工作が中心となり各自大いに氣焔を揚げて愉快なる數刻を過し、午後九時半學歌を高唱して散會す。

川邊支部

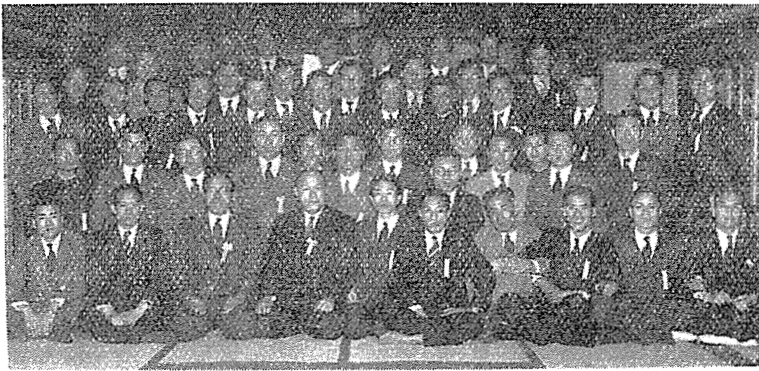
このたび左記に支部事務所を移轉せり。

兵庫縣川邊郡伊丹町主基町五四七 安井章吾方

K U S 春季總會

大阪通信

局に在職せる關大校友並に在學生を以て組織せる本會の春季總會は去る四月六日午後五時江戸橋島菊にて開催、遠く姫路神戸からも參會、諸般の報告役員改選があり記念撮影の後開宴、參會者一同終始非常時局を忘るざる態度を持しつ



K U S 春季總會

つ、歡を盡して九時過散會、尙當夜の出席者は實に五十名で盛會であつた新役員の内正副會長は左の通りである。

會 長 阿部 正一
副 會 長 濱路 正久
出席者(順序不同)
沖鶴忠(姫路局長) 井上正臣(神戸工務) 阿部甚吉(辯士)

山井 立夫 北村 學 今井 繁 阿部 正一
藤田 政治 武藤 三 杉原 悟 植原 出
坂上 雄 山根 龍吉 藤田 正雄 瓜田 英治
佐藤 英夫 伊賀崎 寛 濱路 正久 大野幸一郎
北村 實 竹内 國藏 嶋田 次男 後藤 連雄
日下部茂一郎 藤谷 光彦 松本 重一 門脇 多吉
伊木 正胤 坂下一郎 三木 寛則 高芝 清貞
服部 福治 井上 龍男 土屋 昇 眞木 守
田中 伊造 稻森 茂 仁木弘三郎 西崎 唯一
江指幸四郎 道光 充 芦原 勉平 山中 邦男
中筋 福三 樺木 邦彦 増田 好秀 三宅 一夫
西井 大三 河北 正義 曾我部桂一

動 靜

末廣 清吉君(明四〇専法) 平壤地方法院長を退職し公
證人役場開設、住所京城府南大門通二丁目一
中村 義雄君(明四二専法) 吉川組大連出張所より吉川
組本店(奉天稻葉町三番地)へ轉勤
田中 俊逸君(明四四大商) 住友生命保險會社京城支部
長代理(京城府黃金町一丁目一〇二)
小曳 陽市君(天七 専法) 日産化學工業會社(東京市
芝區田村町一ノ二日産館内)住所横濱市神奈川區
桐畑四〇(電神奈川七二二)
森田 耐一君(天八 専法) 日本赤十字社大阪支部

中支戰線より

中支戰線に〇〇隊長として活躍中の専門部學
生課主任生徒主事可野敬四郎大尉より近信

中支那にも愈々春が訪れました。其の後は思ひながらもうい御無音に打過ぎました事を幾重にも御詫び申上げます。

皆様方には御變りは御座りませんか、定めし御健勝の御事と存じますが御伺ひ申上げます。次に私事も御蔭様にて元氣旺盛、目下津浦線〇〇の警備勤務に従事いたして居りますから御安心下さい。戰場ながらも當地は早や春風駘蕩、柳の葉は緑を増さん事を競ひ、一步郊外に出づれば蒲公英など今を盛りと咲き誇り、内地も今はかくやと思を馳せて居ります。たゞ櫻花を見ざるは何となく物寂しく感ぜられます又嘗て縦横無盡に踏みじりし麥も六七寸に伸び、青々として際限なく續く見事さ、これにひきかへ田の面は主なし顔に維然たる切株を残したるまゝ、長く續いて居るのも哀れです。

部落々々の家は殆ど焼失倒壊の慘狀を呈して居りますが、附近に點在する小森には内地と同様小島のみは樂さうに暮つて居ます。私は飼馴らしの主なきカナリヤや雲雀を十羽近く集め朝夕愛で、居ますが、春陽に羽ばたきながら疲れも見せず終日歌ひつゞけ、殺風景な假營舎に朗らかさと慰めを與へてくれます。又黄昏頃より奏する蛙の聲も遠く近く聞え暫し我を忘れて聞き入る事もあります、時にもあらず突然嘶く驢馬の聲に醒さるゝことも度々です此の頃は朝まだきより附近の土民共は菠薐草や葱

元成 千年君(大八 專商) 明治生命保險會社
 北岡 醇平君(大一〇 專商) 間島自動車會社取締役支配
 人、住所滿洲國間島省延吉街
 八田 薫君(大十三大 專商) 福岡縣立鞍手中學教諭を退
 き西南學院高等學部高等商業科勤務、住所福岡市
 樹木屋町一六
 木村 惇三君(大一四 大 專商) 警部補、新町署より島之内
 署へ轉勤
 村上 勝治君(大一四 專商) 朝鮮元山遞信分掌局監督課
 大泉 三郎君(大一五 大 專商) 警部補、警察練習所より大
 阪府警察部警務課へ轉勤
 山川 兵一君(大一五 專商) 警部補、大阪府警察部警務
 課より島之内署へ轉勤
 原谷 爲一君(昭二 大 專商) 株式會社藤六商店(東區京
 橋三丁目五五)
 光石 正次君(昭二 專商) 警部補、泉尾署より島之内
 署へ轉勤
 島 義男君(昭三 專商) 警部補、大阪府警察部警務
 課より同監察課へ轉勤
 西村 孝次君(昭三 專商) 日本生命金澤支店督勵部長
 住所金澤市下堤町
 三木 均君(昭三 專商) 警備銀行、住所廣島縣芦品
 郡府中町朝日町
 吉川 壇君(昭四 專商) 辯護士、住所天王寺區上本
 町八丁目
 井村 虎夫君(昭四 專商) 船場警察署、住所旭區千林
 町四一二
 前田 豊治君(昭四 專商) 尼崎信用組合を退職、前田
 運送店(尼崎市杭瀬古樋一〇)を開業
 鈴木 重男君(昭四 專商) 滿洲國奉天警察廳警務課、
 警佐
 青木 太郎君(昭四 專商) 滿洲國奉天放送局、住所奉
 天平安通二四
 伊東 眞造君(昭五 專商) 朝鮮電氣會社城津支店(咸
 北城津港城津本町)
 土田 善二郎君(昭五 專商) 東京市役所、住所芝區濱松
 町一ノ四、小木ビル三階
 菊池 三郎君(昭六 專商) 近江帆布工場、住所愛媛縣
 西宇和郡千丈村松柏
 有藤 立生君(昭六 專商) 滿洲電氣會社新京管理局
 (新京南廣場)
 川崎 多一君(昭六 專商) 奉天中央電報局庶務課
 島橋 良一君(昭九 大 專商) 大阪府平野警察署
 (當該縣本
 河野 必君(昭九 大 專商) 平山鑛業所、住所福岡縣嘉
 穂郡桂川村土師
 赤野 正男君(昭七 大 專商) 任警部補、阿部野署へ
 中村 進君(昭七 專商) 臺北州通譯官、基隆水上署
 外事係、住所基隆市眞砂町五〇
 椎尾 普太郎君(昭八 大 專商) 和歌山地方裁判所檢察局、
 住所和歌山市大井戸町九
 寒川 喜一君(昭八 專一法) 大阪市立京橋勞働紹介所庶
 務部主任、住所東成區片江町五〇三
 濱田 壽君(昭八 專二法) 辯理士(西區京町堀通四丁
 目廣田ビル三階)
 太田 文次君(昭八 專二商) 大連市役所、住所大連市聖
 德街四ノ七
 木下 清君(昭八 專二商) 陸軍主計中尉、滿洲國三江

或は鶏卵など三々五々と賣り歩き、私達は片言まぢ
 りの支那語、手まね、身ぶりよろしく用を辯づるも
 一興です。津浦線は嘗て追擊戰團中敵兵敗退に際し
 爆破する所となり交通輸送上多大の支障を來し居り
 しも、我が鐵道隊並に特殊部隊が萬難を冒しての活
 躍は目覺ましく、遂に復舊工事を完成し、三月二十
 日私も出席、之が盛大なる開通式を見たは蓋し皇
 軍の誇りとするに足るべく、暫く振りにて聞く汽笛
 の響は實に壯快の極みです。お蔭で近來は彈藥糧秣
 は申すまでもなく、郵便物等速かに受領致さるゝ様
 になりました事は戰地に在る私達にとり無上の喜び
 です。

加ふるに上海・南京等の重要都市の狀況は新聞紙
 上等にて御承知の事と存じますが、最も頑強に抵抗
 せし敵軍の據點にして、爲に戰團熾烈を極めし所な
 るも、神速果敢なる我が軍には敵すべくもあらず忽
 ち蹶る日章旗此の日の本の旗を目標に集り來る避難
 民、今は安泰樂土の地として暴政より逃れ得た喜び
 を滿面に湛へ、日夜營々嬉々として其の建設に邁進
 中の有様にあり、燈火管制も實施せざるの現況に到
 達せるは彼我共に欣快に堪へない所であります。

前述の如く現警備地附近は漸くにして平和の曙光
 見え初めたる如くなるも、三月中旬後四回の敵重爆
 機の一襲を受けましたが、幸に大した事もなくすみ
 ました。昨今は之れも遠のいた様に思ひます。

又數里乃至十數里の地區には尙敗殘兵や土民等を
 煽動して仇なす匪賊遊撃隊なるもの跋扈し居り、之
 れが討伐の爲め時々出動いたします。

以上の状態で第一線の我々は時によりては靴、脚

省佳木斯、伴部除

内田 晃一君(昭九 大法) 辨理士、住所岡山市下田町

一五

越知 元二君(昭九 大法) 福知山税務署

佐藤虎太郎君(昭九 一商) 酒造業、帯廣市東二條南七

丁目一(豫備歩兵少尉として北滿に出征中)

松井 正一君(昭九 一商) 大阪府醫師會

黒田 一男君(昭九 一商) 藤本ビルブローカー 證券會

社京城支店(京城府黄金町二丁目五六)

澁川 俊郎君(昭一〇 大法) ラサ工業會社朝來鐵業所(

兵庫縣朝來郡山口村新井)

荒木專太郎君(昭一〇 大法) 十三橋警察署、住所三島郡

千里村片山一九九

小堀 登君(昭一〇 一專) 厚生省保險院簡易保險局

第三支拂親、住所東京市麻布區木村町一四六、高

橋作治方

井上 明美君(昭一〇 一專) 德島縣撫養警察署

獨活山萬司君(昭一〇 一專) 日本放送協會業務局、住

所東京市芝區田村町四丁目一〇ノ五、佐々木方

(兼理野郎) 洋君(昭一〇 一專) 織物製造業、住所住吉區住

吉町九二(電住吉三三三〇)

篠尾 善一君(昭一〇 一專) 小倉市役所

宍道 武雄君(昭一〇 一專) 日本通運會社廣島支部、

住所廣島市段原新町三〇七、大西庄太郎方

井芹 哲也君(昭一〇 一專) 臺灣總督府、住所臺北市川

端町二七〇

佐藤 丈夫君(昭一〇 一專) 株式會社福昌公司(大連)

岡田 實之君(昭一〇 一專) 十八銀行

大島 正巳君(昭一〇 一專) 株式會社八木商店(東區

南久太郎町二丁目)

福本 洋君(昭一〇 一專) 宇治川電氣會社、住所西

成區田端通三丁目八、東一正方

住所移動

諸隈元次郎君(昭一〇 一專) 福岡市向田町六四

森寺 美一君(昭一〇 一專) 兵庫縣武庫郡本山村岡本一

九八

鈴木 春季君(昭一〇 一專) 松山市外道後湯之町南町五

丁目

熊野 猛君(昭一〇 一專) 門司市丸山町三ノ一二〇二

古川 武君(昭一〇 一專) 東京市大森區田園調布二丁

目八八

馬場 次郎君(昭一〇 一專) 布施市菱屋西

糸島實太郎君(昭一〇 一專) 京都市右京區嵯峨天龍寺北

造路町八(電嵯峨六五六)

名倉 熊藏君(昭一〇 一專) 住吉區昭和町中一丁目三九

坪郷 芳介君(昭一〇 一專) 台北市川端町三七七

土方 一男君(昭一〇 一專) 福岡縣嘉穂郡柱川村吉隈

玉置轉留男君(昭一〇 一專) 兵庫縣武庫郡精道村芦屋御

所ノ内八五二

青木 由郎君(昭一〇 一專) 戶畑市牧山四四六二ノ一

山崎 義輝君(昭一〇 一專) 大連市聖德街四丁目二七

加藤 敬之君(昭一〇 一專) 松山市豊坂町蓮福寺内

平井 三郎君(昭一〇 一專) 大連市霧島町一〇一

中野 英一君(昭一〇 一專) 大連市聖德街二丁目九七、

石田方

大倉 政男君(昭一〇 一專) 住吉區桑津町一二二

辻本 政君(昭一〇 一專) 尼崎市長洲大門二四

絆のまゝで過すこともありまので將兵一同緊張し
て居ります。

私は去る三月一日附を以て〇〇隊長を拜命一層緊
張の上、兵の戰闘訓練に將又諸勤務に奮闘致して居
ります。

末筆ながら銃後各位の御活躍に對し感謝の意を表
すると共に皆様方の御健康をお祈り致します。

昭和十三年四月六日

中支派遣軍秋洲部隊田代部隊長瀧部隊可野隊

可野 敬四郎

大連支部より

陽春三四月になれば毎年感ずることであるが、母
校の新卒業生が一向に滿洲に、否海外に進出して來
ないことである。實に進出力の鈍さを感じず。それ
に引換へ他校の卒業生が相當多數にやつて來る有様
を見ては校友たる者さうの寒心の感なきを得ない。

斯る現象を露呈してゐる原因には種々あるであ
らうが、其缺陷とする處は學校當局に熱のないこと
及び學生自身が無氣力に等しく、最高學府を出た日
本青年としての使命觀、抱負に乏しいことである。

卒業と同時に自ら進んで開拓活躍の天地を目指して
やつて來る者は曉天の星にも足らず、時にやつて來
る者ありとすれば、それは卒業後二、三年を経過し
内地で行詰り、已むを得ずしてやつて來ると云ふ部
類である。已むを得ず流れて行くと云ふ様な心境で
は、出發の時既に敗者の烙印を捺されてゐることを
自覺すべきだ。滿洲と雖も、將又北支中支と雖も、
確固たる意志もなく、フラ／＼やつて來た者すべて

岩崎 繁男君(昭九第一法) 奉天平安通二四、青木方
 小島 武一君(昭九第一商) 八幡濱市旭町、松岡方
 上岡 健行君(昭九第二法) 東成區猪飼野西二丁目一〇
 松浦方
 村井 新次君(昭一〇大法) 尼崎市難波新町三ノ二四〇
 品川 久夫君(昭一二第二法) 豊中市櫻塚七七六
 大場 猛男君(昭一二專經) 福岡市住吉昭和町五六七
 渡邊保太郎君(昭一二專文) 愛媛縣新居濱市金子田所
 半田 誠治君(昭三專法) 滿洲國齊々哈爾市德茂胡同
 一號
 (舊桂田邊) 矢野 平馬君(昭四專法) 東京市本郷區根津片町一四
 細田金三郎方
 黒田 健勝君(昭五專商) 大連市惠比須町二四
 川崎豊次郎君(昭六專經) 高知市本町二丁目、高知ア
 パート
 今西 繁治君(昭七專經) 住吉區田邊東ノ町六丁目四
 (舊桂田邊) 大野 達男君(昭七專商) 兵庫縣川邊郡立花村水堂松
 本五一

逝 去
 新免 峰彦君(昭二七法) 本學校友會評議員にして京
 都市にて辯護士開業中の處昭和十三年四月三十日
 逝去
 丸山 普生君(昭三〇法) 昭和十二年二月八日
 原田 重吉君(昭三一法) 昭和五年六月
 原田 榮藏君(昭三七法) 昭和十三年四月二十八日
 中ノ内鹿太郎君(大一四專法) 昭和十二年七月二十四日
 中島 隆君(昭一二第二法)

越智 三夫君(昭一二第二經) 昭和十二年九月
 曾根松次郎君(昭一二大經) 昭和十三年四月二十三日

改 姓 名

(昭四專法)	田邊平馬	(新)	矢野平馬
(昭五大經)	高橋五郎		高橋大善
(昭六專法)	江子多一		川崎多一
(昭六專經)	蟻木必		河野必
(昭七專商)	中野達男	(舊名桂田邊)	大野達男
(昭一二大英)	野原洋		大野達男
(昭一二專國)	山田久一		山田龍遵

靴を丈夫にする

HHH サンモッチ

靴クリーム

大及本舖株式会社 新藤商店



を收容するほどには未だなつてゐないことを知つて置いて貰ひたい。

大學それ自身は就職の機關でないことは明瞭である、だが學校當局も時勢の推移には刮目活眼を開いて欲しいものだ。當局から校友會宛に心のドン底から新卒業生の就職を依頼して來たことはない。只一片の千篇一律的の文言を並べた印刷物を一度送りおけば足れりと思はれたら大間違ひで、それ程現在の世の中はお目出度く出來てはゐない。他大學では盛に熱心に卒業生の就職斡旋に教授達が廻つてゐられるのを見るにつけ、それは大學の使命外かは知らぬが、母校を想ひ、卒業生の貧弱さを思ふ時、やはり人情として羨望の念が湧いて來る。關東の大學では新情勢に順應し、滿洲支那方面に進出する適材養成を目的に新たな科目を開設し、其他萬般の用意おさゝ怠りなきを、……我關西大學の如きは舊套を早く脱し、新生面の開拓、眞實の人間を造り上げることに腐心してこそ母校の興隆もあり、又眞に國家に貢獻するものであると思ふ。(下略)

朝鮮支部會報第七號(一三、四、一)の御寄贈に預つた。同支部の人々が母校愛に燃え、又校友間の親睦を圖ると同時に一致結束して、母校關西大學の向上發展に寄與せられてゐる眞摯な姿に對しては萬腔の敬意を表し、且つ益々擴大強化に努力せられ、眠れるが如き内地支部に一大活力を注入せられんことを切望する。

支部會報「秀麗」第二四號より

學友欄

皇道宣揚會講演會

一般學生としても正しく其の時局を認識することは緊要事である、其の一助として左記諸先生に最近の支那事情に對する有益なる御講演をお願いすることゝなり、時恰も靖國神社臨時大祭の四月二十六日午後零時半より天六學舍講堂に開催した、聴講者約六百五十人

先づ神戸學長先生の「挨拶」として日本精神即ち皇道である所以を述べられ而して日本人として此の精神が現時局に甚だ重要性を持つ事をお話あり、第一期戦後のデリケートな國際關係に言及せられ堅忍不拔の日本精神により長期戦に堪へ得られる様の不動の覺悟のもとに健康に留意し、舊皇道精神なるもの即ち日本精神の眞實を只抽象的に無爲に終らせる事のなき様、これが現實に發揮する様望ま

る。
次で小林中佐殿より「長期戦の覺悟」と題して目下の我軍の活躍状態より蒋介石が何故長期抵抗を覺悟したかの理由をお話あり、而して彼等が盛んに今唱ふる

抗日の眞相なるものが如何様のものか又長期抗戦を稱へて譲らざる理由を説破せられ、最後に表面の武力戦に伴ふ裏面の思想經濟戦の重要性を力説國民精神總動員として銃後國民として一に思想に二に經濟に我が忠勇なる出征兵士をし一後顧の憂なからしめん事を告げらる
次に大毎社會部副部長、和田傳五郎氏の「上海戦線より歸りて」との題名のもとに現地に於ける我が皇軍の働きと其の實狀に就き懇切にお話があつた。

東亞研究會

四月三十日午後五時半より心齋橋明治屋にて本年度新會員歡迎會を開く、多數新會員の参加を見、午後十時散會。

新會員募集
東亞研究會の主たる業務は左の如し。

- 一、支那語講座
- 二、討論會
- 三、機關法「東光」發行
- 四、東亞事情講演會(名士招待)
- 五、留學生招待交歡會
- 六、親睦會

デ杯選手

倉光君の活躍

本學庭球部の至寶、倉光安峯君其の後の活躍は渡歐初めの練習不足からの不成績を次第にノーマルに取戻し、一試合毎に其の鋭鋒當るべからざるものがある。

四月二十一日 ローマバリオコート
シングルス二回戦

ロモノ(伊) (6-1, 2) 倉光

四月二十三日

ダブルス二回戦

倉光(5-7, 9-7) ビトウ(伊)
中野(6-3, 3) (マルティネリ)

ダブルス準決勝

ボツシ(伊) (2-6, 6-3) 中野
デルビタ(伊) (7-5, 5) 光

混合ダブルス決勝

ロツシイ(伊) (9-7, 7) 倉光
ウイラー(伊) (6-3, 3) サンドニコ

日伊印對抗試合

四月二十九日 ミラノクラブコート

倉光 6-3 6-3 ボツシ(伊)

四月三十日

倉光 6-2 6-1 アラン(印)

ドイツ國際庭球

五月五日 南獨逸ヴェイスバードン

シングルス一回戦

倉光(6-2, 2-6) ゲルステル(獨)

ダブルス二回戦

中野(6-2, 2) アラン(印度)
倉光(6-4, 4) ギュンター(獨逸)

關西六大學野球

春季リーグ始まる

四月十六日正午の入場式を皮切りに慶屋川球場に春季リーグ戦は華々しく開幕西村、中河、釣の投手をプロ野球界に送つた後の本學陣容には一抹の寂寥を感ずるも、飯田部長聲明する處の最強チームたらず最優チームたむとする意氣を以ていざ戦はんのみ

四月十六日 一回戦

關大 6-2 神戸商大

バツ 關大(宗内、肥下、岡本) 宮川
テリイ神商(中菅、沼波)

四月十七日 二回戦

神戸商大 4-3 關大

バツテリイ 神商(中菅、沼波)

本年度神商大チームは昨年のバツテリイ眞部、小池を一壘、右翼にし神戸高商の黄金時代を創つた新人中菅投手をプレートに立て對戦關大六回迄リード七回に入り神商大の集中長短安打に四點を得られ形勢逆轉急迫及ばず敗る

四月二十九日 一回戦

關大 4-3 京都帝大



五月一日 二回戦
 關大 16 — 2 京都帝大
 バッテリー 關大 關本、宮川、京大 福村、三木、豊川
 京大チームは捕手矢戸を送り豊川を起用、一回戦に比し元氣なく安打十三を浴び四死球十三を得られ潰滅した、この日岡本投手の快調は打つて本壘打を出し守

つて三振七を取る
 五月九日 一回戦
 關大 8A — 0 同志社大
 バッテリー 關大 木田、大角、間、堀尾、宗内、肥下、宮川、山崎
 五月十日 二回戦
 同志社大 6 — 5 關大
 バッテリー 關大 關本、宗内、吉松、岡本

昨年と大同小異の同志社チームは結束して遂に四回表に一點リードの儘押し切り金星を射止めたこの日の敗因は宮川捕手の負傷缺場もあらうが一回戦快勝でふ大きな虚を狙ひ打ちされたもので大に戒心すべきである。

籠球部

氣勢愈昂る

關西學生界の雄として永年その威力を縦横に驅せてある籠球部今春成績は大阪學生リーグに六ヶ年連続優勝し、關西學生リーグにはその優勝戦に王者京都帝大と見え輪贏を決せしも左の成績にて遂に退敗す。

〔大阪學生リーグ戦〕於大阪YMCA
 4月16日 關大 60 — 39 大阪高校
 同 18日 同 59 — 17 大阪外語
 同 20日 同 48 — 15 大阪藥專
 同 22日 同 56 — 31 浪速高校
 同 23日 同 66 — 35 大阪高醫
 同 24日 同 59 — 30 大阪商大

馬術部
 四月三日阪急仁川阪神乘馬クラブにて第一回關西學生乘馬聯盟O・B軍對聯盟選手對抗綜合馬術大會に本學よりO・B軍に樋口健造氏、北幸司氏、有留清太郎氏、宮本恒夫氏（オリンピック候補選手）聯盟選手軍には廣谷泰助君、中里利夫君、安藤六雄君出席し本學の爲め萬丈の氣を吐いた。四月十日甲子園乘馬クラブにて第一回關西學生純馬術大會に中里利夫君、安藤六雄君の豫科チームを以て出場、中里君堂々二位を獲得す。

陸上競技部
 新人の飛躍
 五月七日、大阪市立運動場に於ける本學豫科對同志社大學豫科戦は鳳雛多數を擁する本學新人の活躍接しく得點大差を以て捷つ

航空部
 春秋特別練習は三月十五日より二十二日迄一週間府下眉津飛行場に於て舉行參加人員學部三名、豫科三名、専門部六名計十二名參加、然かも此の内、龜正英君は三月十七日稲本稔英君は十八日何れも單獨飛行を行ひ本學の名を擧げ之にて本學會員中單獨終了者合計五名となり一路本學航空部の名を擧げんが爲に部員一同向上の道をたどりつゝあり。

一部山岳部
 夏山トレイニング決す
 一部山岳部にては疊に學内ハイキングを舉行し民衆スポーツを宣傳し學内の好評を得たが左記日程を以て夏山トレイニングをなす事となつた。

射撃部
 五月一日 阪和射場開き射撃大會
 一等 關西大學 二九七點
 二等 關西大學專門部 二九二點
 三等 關西學院大學 二五九點
 以下略

五月十三日—十六日（大峯縱走）
 下市町—川合—川追川峽谷—行者還嶽—大善賢嶽—山上ヶ嶽—洞辻—稻村嶽—吉野—歸阪

四月八日より金、土、日曜及び祭日に普通練習を行ひつゝあり。
 同じくグライダー部は四月二日より六日迄新設淀川滑空場に於て特別練習を行ひ十數名の會員參加した。滑空士免狀を得んものと今後は日曜毎に練習を行ふ豫定なり。

四月二十日學部會員はニューガール二十九型機を操縦新入生歡迎祝賀飛行を行つた。

〔専門部第二部〕

英文和譯 (法律科、經濟科、商業科)

- ① The pursuit of knowledge is one worthy form of activity. But it is not the only worthy form; it is not, I think, the first.
- ② A book may be compared to your neighbour; if it be good, it cannot last too long; if bad, you cannot get rid of it too early.
- ③ Among any large number of people there are, unfortunately, some who will not respect the rights of others or who are the victims of their own vices.

英文和譯 (國語漢文科)

- ① The boat, keeping her way to the last, run up the shore as if she meant to climb the sands, ploughing a furrow with her keel; then stopped short, and the five men who had been watching the preacher's arrival, drew near, looking pleased and full of good-will toward their preacher.
- ② So far is a thorough love and enjoyment of travel from interfering with the love of home, that perhaps no one can thoroughly enjoy his home who does not sometimes wonder away.
- ③ In her expansion Rome devised a new method fit for her ideal. She built roads to serve as links of Empire, and in building them set her mark upon the Italy which she was creating.

英文和譯 (英語科)

- ① The more things a man is interested in, the more opportunities of happiness he has and the less he is at the mercy of fate, since if he loses one thing he can fall back upon another. Life is too short to be interested in everything, but it is good to be interested in as many things as are necessary to fill our days.
- ② No nation lives entirely isolated from others, and contact between nations always results in affecting their languages. No language is, therefore, free from foreign elements.

和文英譯 (英語科)

- ① 四五年前迄は外國の風習を率先して採用した人達が今日ではそれに反對する様になつて來た。

- ② 平和克復後日本の支那貿易が著しく發達することとは云ふまでもないことです。

國語 (國語漢文科)

解釋

古今集に病して弱くなりける時よめる業平朝臣つひにゆく道とはかねて聞きしかどきのふけふとは思はざりしを

契沖いはくこれ人のまことの心にて教にもよき歌なり後々の人は死なむとするきはに至りてことごとしき歌をよみあるは道をさとれるよしなどよめるまことしからずしていにくしただなる時こそ狂言綺語をもまじへめいまはとあらむ時にだに心のまことにかへれかしといへり

漢文 (國語漢文科)

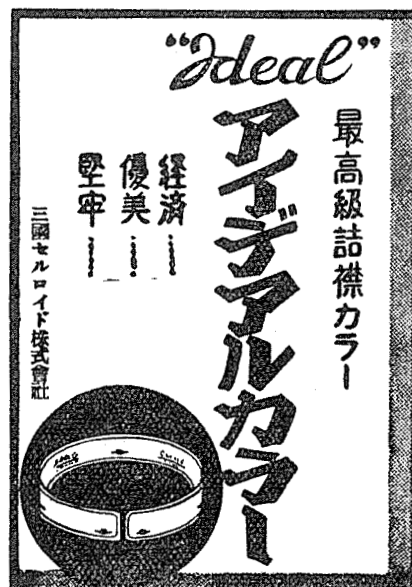
左ノ文章ニ送假名ヲ附シ、全文ヲ解釋セヨ。

元氣衰々天憐。見元帥張弘範。左右命之拜。天憐之。屈弘範辭其節。以客禮見之。天憐固龍成。弘範不結。或問弘範曰。敵人之節。不可測也。不直近之。弘範曰。彼其幾也。保無他。

作文

日本精神 (法律科、經濟科、商業科)

支那事變の意義 (英語科)



〔經商部〕

英文邦譯 (經濟科、商業科)

- ① Reichsfuehrer Adolf Hitler has ably exploited former Austrian Chancellor Schuschnigg's attempt to hold a national plebiscite to decide the Austrian independence question. In a single day the Fuehrer has effected Austro-German Anschluss. The wonderful ability and conviction displayed by the Reichsfuehrer indicates the power of rising Germany and is a lesson to a certain hesitant nation. Japan, seeing this stern reality, must be fully awakened, particularly with respect to its political condition.
- ② One fact seems fairly clear. If there is unrest in Asia, some of the seeds of that unrest have been sown by the western democracies as well as by the Soviets. For it was the West that gave Asia its first intensive course in nationalism, a few years before the Soviets appeared in Russia. The World War was being fought in those days; and the speeches of every statesman in the Allied nations rang with talk of "self-determination for suppressed peoples" and "the rights of saller nations."

獨 文 邦 譯 (經濟科、商業科)

- ① Übers Leben noch geht die Ehre!
- ② Ganz und voll ein mann zu sein!
- ③ Sage mir, mit wem du umgehst; so sage ich dir, wer du bist; weitz ich, womit du dich beschäfstigst; so weitz ich, was uns dir werden kann.
Goethe.
- ④ Was der mensch ist, verdankt er der vereinigung Won mensch und mensch. Gierke.
- ⑤ Meint man Z. B., dass jeder das gleiche Recht auf Ausbildung habe, so ist das in wahr heit nichtssagend. Stammler.
- ⑥ Daher ist auch die Moral nicht eigentlich die Lehre, wie wir uns glücklich machen, sondern wie wir der Glückseligkeit würdig werden sollen. Kant.
- ⑦ Um das Gute zu lesen, ist eine Bedingung, daz man das Schlechte nicht lese; denn das Leben ist kurz, Zeitund kräfte beschränkt.
- ⑧ Wer die Schule in seiner Hand Hat, dem gehört die Zukunft. Denn die der jugend eigenprägten Lehren haften fest und bestimmen deren Lebensanschauung noch für lange Zeit.
- ⑨ Alle Staatsbürger ohne Unterchied sind nach matzgabe der Gesetze und entsprechend ihrer tzfähigung und ihren Leistungen zu den öffentlichen Ämtern zuzulassen.

論文

(經) 現時我國に於ける經濟學の重要性に就いて
(商) 時難に際し商業に志す者としての心構へに就いて

〔第一大學豫科〕

五
或

左ノ文ヲ解釋セヨ

- ① よろづ何のわざにもいにしへより法となすしる
べありてそれによらざらむはまことの心を得が
たくそののりを得たるはまめやかなりとて人も
うべなふめりこはもとよりことわりさる事なが
らふかく事のもとを考ふるによろづの事はじめ
に法をまうけ置きて後にそのわざをなし出づる
にはあらずそのわざあるがうへにこそ法てふ事
はいで來めれ
- ② 何ごとも入りたたぬさましたるぞよきよき人は
知りたることとてさのみ知りがほにやはいふ片
田舎より出でたる人こそよろづの道に心得たる
よしのさしいらへはすれされば世に恥しき方も
あれどみづからいみじと思へるけしきかたくな
なりよくわきまへたる道には必ず口重く問はぬ
かぎりはいはぬこそいみじけれ

漢文

左ノ文章ニ送假名ヲ附シ、全文ヲ解釋スベシ。

送昨日，迎今日。送今日，迎明日。人生百年，不過如此。故宜慎一日。一日不慎，則遺憾於身後。可恨耳。

左ノ文章ニ送假名ヲ附シ、——符アル句ヲ解釋スベシ。

上曰。人生如白駒過隙。所爲好富貴者。不過欲多積金錢。厚自娛樂。使子孫無乏資之耳。

英文和譯

- ① In the modern world, owing to the swiftness of locomotion, people are less dependent than they used to be upon their geographically nearest neighbors. Those who have cars can regard as a neighbor any person living within twenty miles.
- ② Be careful not to interrupt another when he is speaking; hear him out, and you will understand him the better, and be able to give him the better answer.

〔法 文 學 部〕

外 國 語 (英、佛語中一ヲ選擇)

英 文 邦 譯 (法律、政治學科)

- ① No society can continue without some uniform practice and habits of life. Individual impulse has to be subordinated to this need; and this subordination is a never-ending process. Hence there must be rule and constraint; and not the less so because, in one sense, the aims of the society and of the individual coincide. On the whole and in the long run the interest of the individual is that society should exist.
- ② The business of Governments is to govern. Now government, in any real sense, will become impossible if successive Governments come to spend most of their time in undoing their predecessors' work. Moreover, if any party sets out really to change the fundamental basis of Society, it must feel assured of its own prolonged continuance in power, and against the undoing of its work by the opposite party.

英 文 邦 譯 (哲學科)

- ① If we take society to include the whole of human life, this may truly be said to be organic, in the sense that influence may be and are transmitted from one part to any other part, so that all parts are bound together into an independent whole. The total life being unified by interaction, each phase of it must be and is, in some degree, an expression of the whole system. My thought and action, for example, is by no means uninfluenced by what is going on in any other part of society.
- ② While it is easy to concede that language was built up in the attempt of man to communicate his feelings and thoughts to others, it in turn has been a powerful coercive influence and a direct social creation. Only those who could understand one another could be brought into close relationships. Thus language was a powerful instrument in developing racial and national unity.

英 文 邦 譯 (英文科)

It may fairly be questioned whether that necessary connection between art and religion, which is commonly taken for granted, does in truth exist;

in other words, whether great art might not flourish without any religious content. This, however is a speculative problem, for the present and the future rather than the past. Historically, it has always been found that the arts in their origin are dependent on religion. Nor is the reason far to seek. Art aims at expressing an ideal; and this ideal is the transfiguration of human elements into something nobler, felt and apprehended by the imagination. Such an ideal, such an all-embracing glorification of humanity only exists for simple and unsophisticated societies in the form of religion. Religion is the universal poetry which all possess; and the artist, dealing with the mythology of his national belief, feels himself in vital sympathy with the imagination of the men for whom he works. More than the painter is required for the creation of great painting, and more than the poet for the exhibition of immortal verse. Painters are but the hands, and poets, but the voices whereby peoples express their accumulated thoughts and permanent emotions. Behind them crowd the generations of the myth-makers; around them floats the vital atmosphere of enthusiasms on which their own souls and the souls of their brethren have been nourished.

佛 文 邦 譯 (法、政、哲、英)

Plusieurs civilisations se sont probablement succédé sur le sol chinois avant celle des temps historiques. Les fondateurs de celle-ci, venus de l'Asie septentrionale se fixer dans la vallée du Fleuve Jaune, y édifièrent un régime social, politique, économique, qui reste l'une des grandioses créations humaines que le monde a connues. Vers le début de l'ère chrétienne, ce régime s'est stabilisé sur la base de principes directeurs que l'Ecole confucéenne, grâce à un arrangement artificiel de la haute histoire, prétendait avoir été dès les origines établis par de sages souverains. Si le perfectionnement et la variété des méthodes de la sinologie permettent de concevoir la possibilité d'écrire un jour une histoire évolutive des institutions, il n'en reste pas moins vrai que celles-ci ont conservé une homogénéité, une densité, une permanence, dont on ne connaît pas d'autre exemple.

論 文

(法) 法律と政治

(政) 最近に於ける世界政治の動向を論ず

(哲) 道徳的生活を論ず

(英) 何故に私は外國文學を研究せんとするか

關西大學圖書館閱覽統計

昭和12年度 自昭和12年4月1日 至昭和13年3月31日 開館日數 258日

天六學舍圖書館之部

科別 種別	專門部				大及大學豫科部	合計	一日平均
	法律學科	經濟學科	商業學科	文學科			
閱覽人員	3,856	1,056	4,276	702	191	10,081	39,06
閱覽冊數	6,689	1,917	7,094	1,330	342	17,372	67,3

千里山學舍圖書館之部

科別 種別	法文學部	經濟學部	大學豫科	專門部	合計	一日平均
閱覽人員	5,222	2,793	1,275	57	9,347	36,1
閱覽冊數	9,027	4,133	1,946	95	15,201	58,9

科別 分種別 類別	專 門 部								大及學大豫學部	計
	法律學科		經濟學科		商業學科		文 學 科			
	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書		
總 記	671		221		813		143	39	1,887	
精神科學	26	1	67		319		171	17	600	
歷史科學	78		18		100	1	70	3	269	
政 治 學	551		120		382		27	44	1,124	
法 律 學	3,833		755		1,056		46	152	5,842	
經 濟 學	438		53		1,524		16	45	2,076	
社 會 學	152		48		93		19	3	315	
教 育 學	117		44		179		76	4	420	
民 俗 學	3		1		6		2		12	
軍 事 學	3		4		4				11	
自然科學	27		43		89				159	
工 藝 學	1		5		24				30	
產 業	15		58		157		2		232	
商 業 學	64		308		1,637		15	7	2,031	
美 術	1		1		12		7		21	
語 學	373	16	65	1	46	39	224	33	717	
文 學	314	5	103	2	599	14	469	1	1,504	
小 計	6,667	22	1,914	3	7,040	54	1,296	34	17,250	
總 計	6,689		1,917		7,094		1,330	342	17,372	
閱覽人員	3,856		1,056		4,276		702	192	10,031	

科別 分種別 類別											計
	法文學部		經濟學部		大學豫科		專門部				
	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	
總記	1,165	4	854		322		3		2,344	4	
精神科學	321	8	115	7	184	1	6		626	16	
歷史科學	124	3	106	7	201	5	5		436	15	
政治學	832	4	101	2	158	1	5		1,096	7	
法律學	4,305	428	461	1	280		6		5,052	429	
經濟學	630		1,346	43	60		21		2,057	43	
社會學	195	7	56	9	31				282	16	
教育學	24	2	2		43	3			69	5	
民俗學					2	2			2	2	
軍事學					2				2		
自然科學	53		105	2	90		4		252	2	
工藝學	20	1	44		6				70	1	
產業	43		58		3				104		
商業	39		482	3	2				523	3	
美術	18	3	35	4	6				59	7	
語學	431	51	191	6	325	8	33	2	979	67	
文學	161	155	89	4	193	18	7	3	450	180	
小計	8,361	666	4,045	88	1,903	33	89	5	14,404	797	
總計	9,027		4,133		1,946		94		15,201		
閱覽人員	5,222		2,793		1,275		57		9,347		

關西大學學會發行

關西大學
研究論集

第七號 法律・政治篇

(昭和十二年十一月發行)

天皇主權……………	教授	吉田	一枝
天皇統治に於ける臣民翼賛の意義……………	教授	岩崎	卯一
滿洲國新政治組織……………	教授	大山	彦一
集會結社の警察制限……………	教授	中谷	敬壽
既得權の國際的尊重の原則に付て……………	助教授	柳瀬	兼助
法律解釋の現段階……………	教授	和田	豊二
明治初期の身元保證……………	教授	西村	信雄
衝撃に續く肉體的損害の賠償に付て……………	教授	本莊	鐵次郎
婚約法と内縁法……………	教授	木村	健助
商法第十九條(附號排他)を論ず(性的原則)……………	教授	野村	次夫

第七號 經濟・商業篇

(昭和十二年十一月發行)

營業稅の課稅物件……………	學部長	神戸	正雄
コンラア下の流通經濟機構……………	教授	赤羽	豐治郎
ナチス經濟再建の組織……………	教授	磯部	喜一
商業經營經濟及賣買活動に就ての若干の考察……………	教授	加藤	金次郎
輕市に就きて……………	教授	瀧澤	喜子雄
世界經濟の段階的及成層的構造……………	教授	中川	庸太郎
日本國民性の世界史的意義……………	教授	古川	武
金融統制と我國の經濟情勢……………	教授	正井	敬次
信用資源と金融市場……………	教授	森川	太郎

第七號 文學・哲學篇

(昭和十二年十一月發行)

教育理想としての菩薩道……………	教授	三枝	樹正道
孟子の檢討……………	教授	藤澤	章次郎
キエルケゴールの實存段階……………	教授	大小	島眞二
詩人ハイネ素描……………	助教授	板倉	賴普
Aldous Huxleyの背後……………	教授	堀	正人
Noel Cowardの戯曲……………	教授	山田	松太郎
Expanded Forms に於ける主觀性……………	助教授	八鳥	治一
増加率論……………	教授	河村	信一

第一號 昭和九年十月發行
第二號 昭和十年二月發行
第三號 昭和十年六月發行
第四號 昭和十一年一月發行
第五號 昭和十一年七月發行
第六號 昭和十一年十二月發行

定價 各壹圓
送料 十錢

發賣所 甲 文堂書店
大阪市東淀川區長柄中通
振替六二五二〇番

關西大學教授
經濟學博士 正井敬次著

最新刊

金融論研究

△經濟特殊研究叢書 第二編▽

今日の經濟が依然として貨幣經濟組織の下にある限り、「物」の經濟に對して注意を喚起することも必要であるが、それ以上に更に、「かね」の經濟たる金融の問題に向つての關心を深めることが、時局的に見て重要ではないてあらうか。本書「金融論研究」は著者がその舊著「貨幣價值の研究」に對する姉妹篇として執筆せるものであるが、本書に於て著者は、現下金融上の難問題を解決するための基礎理論と實際上の知識とを提示せんとする。即ち、第一章「金融經濟の基礎理論」に於ては「かね」の經濟たる金融經濟の本質が説明せられ、第二章「資金形成の理論」に於ては貯蓄の理論が、第三章「貯蓄と投資」に於ては貯蓄と生産との關係が問題とせられる。次に第四章「金利の研究」は最も重要な部分として取扱はれ、第五章「我が國の金融經濟」に於ては我が國の金融市場と金融政策の實際が叙述せられてゐる。

東京帝國大學元教授 矢内原忠雄著

好評

帝國主義下の印度

附アイルランド問題の沿革

△經濟特殊研究叢書 第一編▽

本書は英國の統治下に於ける印度經濟の諸問題を、特に印度國民運動の發展に關聯せしめて論述したるものであり、附録として「アイルランド問題の沿革」を掲げる。凡そ植民地問題に關心を有する士は、斯界の權威たる著者の研究に聞かれよ。

頁〇三三 製上判菊
錢拾五圓貳 價定
錢四拾 料送

新刊

海上保險特殊問題

△商業特殊研究叢書 第一編▽

本書は左記の海上保險に於ける特殊問題に對して、斯學の權威藤本博士周匝劃切なる論述を試みられたるものである。人若し我が國の最近に於ける國際的地位の向上と、其の將來海運國若しくは貿易國としての躍進に想到せらるゝならば、博士が茲に本書に於て取扱はれてゐる問題が、其の日常生活上の活問題たることを必ずや深く認識せらるゝであらう。殊に本書の第一に掲げられたる論文は、今次の支那事變を前にして絶好の參考資料を供するものである。敢て本書を斯學の研究若し乃至實際家に推奨する。

東京商科大学教授
商學博士 藤本幸太郎著

頁〇二三 製上判菊
錢拾五圓貳 價定
錢四拾 料送

近刊

大阪商大教授 堀 經夫著 地 代 論 史
京都帝大助教授 堀江 保藏著 日本資本主義成立史
小樽高商教授 南 亮三郎著 人口理論と國際貿易

法律、經濟
商業書類
目錄進呈

大阪北區 振替大阪三一五七二番
梅田新道 電話北一六五三・五七二番
東京駿河臺 振替東京八一三三八番
中央大學前 電話神田二二二八番



株式會社

大同書院